

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

木城えほんの郷を活かした子育て世代の移住促進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

宮崎県児湯郡木城町

3 地域再生計画の区域

宮崎県児湯郡木城町の全域

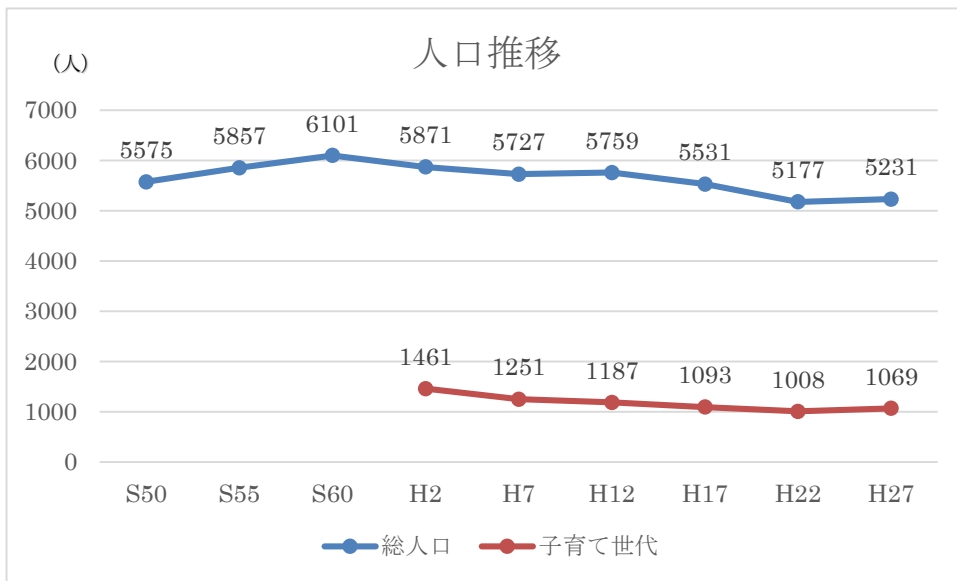
4 地域再生計画の目標

木城町は、宮崎県の中央部に位置する人口 5,231 人の町である。昭和 60 年以降続いてきた人口減少に対応するため、平成 2 年から保育料の軽減を実施するなど、子育て支援を重点的に行うことで定住対策を推進してきたが、転出超過に歯止めがかからず人口減少の傾向が続いてきた。給付的サービスだけで過疎地域に人口を増やすのは限界があることから、平成 8 年から「木城えほんの郷」を活かした事業展開により交流人口の増加、子育て環境の充実を図ってきた。特に平成 19 年から実施している「里山虫むし合宿」などソフト事業の展開を図ったことで、子育て世代の交流人口が増え、移住につながったことにより、平成 21 年から社会増の傾向に転じ、町の人口増につながる形がみえてきた。

(人)

年 度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
子育て世代 転入数 (単年)	78	73	99	89	78	83	81	79
子育て世代 転出数 (単年)	83	72	60	96	65	63	52	66

* 子育て世代の定義：25 歳～44 歳



「木城えほんの郷」は、川や田園、里山に囲まれており、タチツボスミレ、キンポウゲ、カヤツリソウなど年間を通して希少な植物に恵まれ、野生動物や昆虫が豊富に生息する豊かな自然体系を残す山里に位置し、約 20,000 冊の蔵書を備えた「森のえほん館」を中心に、手作り遊びなどワークショップを实践する「森のきこり館」、演劇・コンサートを実施する「水のステージ」・「森の芝居小屋」、宿泊施設の「森のコテージ」等で構成されている。そこではゆったりとしたひとかたまりの時間の中で豊かな自然に親しみながら、絵本の読み聞かせや自然を活かしたイメージ体験活動を実施している。「現代社会の中で人間の心と体をつくる途上の子どもたちにどのように関わっていくべきか、大人たちもその原点に帰って、心も体も元気になれる場所」を基本理念として事業を展開している。

特に四季を通したコンサートや演劇、自然を活かした「里山虫むし合宿」「10才ひとり旅」等の体験（体感）事業は全国から参加者が集まっており、子供の自主性・創造性等を育む取組みは国内外から高く評価されている。特に IT 先進国の韓国からの視察が多く、ネット社会の問題が懸念されている昨今の状況において、子供たちの情操教育を实践する場としてモデルケースとされている。

これら一連の取組みを地域再生の基軸とし、「木城えほんの郷事業」をさらに充実させ、広く子育て環境の充実を図ることで「木城町＝子育て」のブランドイメージを創出し、子育て世代を転入超過とすることで人口増につなげることを目的とするものである。

【数値目標】

(人)

K P I (単年度)	子育て世代転入者数 (25歳～44歳)	えほんの郷 利用者数	木城町観光客 入込数	新規雇用者数 (文化・芸術関係)	
申請時	79	15,897	329,000	—	H28.3
初年度	86	16,697	337,000	1	H30.3
2年目	96	17,897	347,000	1	H31.3
3年目	111	19,497	359,000	1	H32.3

* 数値は単年度の数値

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

子育て世代を中心とした移住促進による人口増を図るため、木城えほんの郷事業による子育て環境の充実を図り、あわせて各種子育て支援施策を実施する。

5-2 第5章の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例
(内閣府)：【A2007】

(1) 事業名：木城えほんの郷事業

(2) 事業区分：移住・定住促進

(3) 事業の目的・内容

(目的)

木城町は、宮崎県の中央部に位置する人口5,231人の町である。昭和60年以降続いてきた人口減少に対応するため、平成2年から保育料の軽減を実施するなど、子育て支援を重点的に行うことで定住対策を推進してきたが、転出超過に歯止めがかからず人口減少の傾向が続いてきた。給付的サービスだけで過疎地域に人口を増やすのは限界があることから、平成8年から「木城えほんの郷」を活かした事業展開により交流人口の増加、子育て環境の充実を図ってきた。特に平成19年から実施している「里山虫むし合宿」などソフト事業の展開を図ったことで、子育て世代の交流人口が増え、移住につながったことによ

り、平成 21 年から社会増の傾向に転じ、町の人口増につながる形がみえてきた。

「木城えほんの郷」は、川や田園、里山に囲まれており、タチツボスミレ、キンポウゲ、カヤツリソウなど年間を通して希少な植物に恵まれ、野生動物や昆虫が豊富に生息する豊かな自然体系を残す山里に位置し、約 20,000 冊の蔵書を備えた「森のえほん館」を中心に手作り遊びなどワークショップを实践する「森のきこり館」、演劇・コンサートを実施する「水のステージ」・「森の芝居小屋」、宿泊施設の「森のコテージ」等で構成されている。そこではゆったりとしたひとかたまりの時間の中で豊かな自然に親しみながら、絵本の読み聞かせや自然を活かしたイメージ体験活動を実施している。「現代社会の中で人間の心と体をつくる途上の子どもたちにどのように関わっていくべきか、大人たちもその原点に帰って、心も体も元気になれる場所」を基本理念として事業を展開している。特に四季を通したコンサートや演劇、自然を活かした「里山虫むし合宿」「10才ひとり旅」等の体験（体感）事業は全国から参加者が集まっており、子供の自主性・創造性等を育む取組みは国内外から高く評価されている。特に IT 先進国の韓国からの視察が多く、ネット社会の問題が懸念されている昨今の状況において、子供たちの情操教育を实践する場としてモデルケースとされている。

これら一連の取組みを地域再生の基軸とし、「木城えほんの郷事業」をさらに充実させ広く子育て環境の充実を図ることで「木城町＝子育て」のブランドイメージを創出し、子育て世代を転入超過とすることで人口増につなげることを目的とするものである。

（事業の内容）

木城えほんの郷を実施主体とし、絵本の読み聞かせ、絵画・写真展、自然を活かした各種ワークショップを県内外に広く PR し、定数を拡大することで子育て世代の交流人口を増やす。また、新たに保育園での読み聞かせを実施するなどこれら一連の取組みを学校教育・子育て支援に連携させることで子育て環境の充実を図ることを目的とし、具体的には以下の事業を実施する。

- ・木城えほんの郷事業

（自然を活かした体感イメージ・ワークショップ関係）

（1）10才のひとり旅（夏・冬開催 年2回）

子どもたちが見知らぬ友と出会い新しい自分を発見する旅（家を出てから家に帰るまで1人旅が原則）。自然の中で川遊び、虫遊び、青年サポーターと一緒にワークショップを楽しみ、心と体を開放し五感全部を使って人に出会って共鳴する楽しさを体験することを目的とするもの。

(2) 今森光彦 里山虫むし合宿 (8月 年1回)

今森光彦氏(写真家)を講師とし、小さな生命に適した環境づくりを続けながら、自然生命に触れる合宿を実施。蝶やトンボ、カブト虫、水に潜むゲンゴロウやマツモムシを追いかけながら、踏みしめる大地の草木、小川の水、ノイバラのトゲなど自然の全てを五感で感じながら、里山と人と植物たちのつながり、危険を察知する能力や体のバランス感覚を育むことを目的とする。

(3) くらやみ探検隊 (2月 年1回)

自然の暗い闇の中を歩き、鹿やフクロウの鳴き声を聞きながら火を囲み、昔ばなしの朗読等、自然の暗闇でしか体験できない探索をすることで原初的な時間を五感で体験することを目的とする。

(4) めだかと一緒のお米作り

春夏秋冬のめぐりの中で米作りを体験しながら自然体験・生活体験・芸術体験し、「米」という概念をこれらの体験を通して獲得していくことを目的とする。

3月 お花見狂言会

6月 お田植え落語会 田植え

7月 めだかの学校入学式

8月 田んぼの守り人 かかしアートづくり

10月 稲刈り めだかといっしょにきく音楽会(収穫祭)

12月 もちつき

(5) 嵐山光三郎俳句遊び (11月 年1回)

嵐山光三郎氏(作家)を講師とし、自然を探索しながら俳句を作り、お互いの作品を鑑賞しあうことで五感を使った表現を学ぶことを目的とする。

(1)～(5)のワークショップを実施するにあたっては、より多くの県外者からの参加者を募るためにインターネットを通して県内外に広く情報発信するとともに、ふるさと回帰支援センターとの連携や首都圏で開催される移住相談会において「木城えほんの郷事業」を広くPRし、特に首都圏からの参加者の増加を図る。

(子育て地域支援関係)

(1) 読み聞かせ事業

読み聞かせサポーターグループと連携し保育園・小中学校全クラスに年2回読み聞かせを実施。年齢、クラスの雰囲気に応じた選書をし、絵本を活かしたイメージ体験をすることを目的とする。

(2) ブックスタート事業

1歳半と3歳の健診時に、子どもの発達にあわせた絵本をプレゼントすることで、早い段階から絵本に親しむ環境をつくり、子どもの健やかな成長を育むことを目的とする。

→各年度の事業内容

木城えほんの郷事業

初年度) ワークショップについては、参加者の増加を図るため県内外に広くPRするとともに各コンテンツの見直し・拡充、アドバイザー講師の選定を行い、実施する。また、利用者アンケートを実施し次年度の取組みに活かす。子育て地域支援関係については、小中学校での読み聞かせとあわせてブックスタート事業を実施し、幼少期から絵本に親しむ環境をつくる。

2年目) 初年度の取組みを踏まえ、ワークショップのコンテンツの改良をし参加定員を増やして実施。子育て地域支援事業も初年度に引き続き実施し、読み聞かせについては、小中学校だけでなく保育園まで読み聞かせの対象を拡大して実施。

3年目) これまでの実績を踏まえ、引き続き木城えほんの郷事業を実施。

(4) 地方版総合戦略における位置づけ

当町のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、基本目標2木城町への人の流れの創出・基本的方向2-(1)観光・交流事業の振興の中で「木城えほんの郷を活かした子育て世代の入込客獲得」を定めており地域再生の中心に位置づけられている。「木城えほんの郷を活かした子育て世代の移住促進プロジェクト」は、これらを総合的に実施する事業である。また、総合戦略の基本目標として観光入込客数(現状329,000人→350,000人)、定住促進奨励事業による転入者数(56人→70人)を定めており、本プロジェクトは、まさにこの目標の達成に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

(人)

事業	木城えほんの郷事業				年月
	子育て世代 転入者数 (25歳～44歳)	えほんの郷 利用者数	木城町観光客 入込数	新規雇用者数 (文化・芸術関係)	
申請時	79	15,897	329,000	—	H28.3
初年度	86	16,697	337,000	1	H30.3
2年目	96	17,897	347,000	1	H31.3
3年目	111	19,497	359,000	1	H32.3

(6) 事業費

(単位：千円)

木城えほんの郷事業	年度	H 29	H 30	H 31	計
		事業費計	23,004	23,004	23,004
区分	委託料	23,004	23,004	23,004	69,012

(7) 申請時点での寄附の見込み

年度	H 29	H 30	H 31	計
法人名	IT関連企業	IT関連企業	IT関連企業	
見込み額(千円)	100	100	100	300

(8) 事業の評価方法（PDCA サイクル）

(評価の手法)

事業のKPIである子育て世代の転入数、木城えほんの郷利用者数、観光入込客数、雇用者数（文化・芸術関係）について実績値を公表する。また木城町まち・ひと・しごと創生推進会議【(官)宮崎県(金)高鍋信用金庫支店長(産)JA児湯支所長、木城町商工会会長、認定農業者協議会会長、(メ)宮崎日日新聞高鍋支局長(労)児湯地区内労働組合(学)南九州大学教授(住民代表)木城町自治公民館連絡協議会会長、木城町若者会会長、木城町民生委員児童委員】において事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

(評価の時期・内容)

毎年度6月に外部有識者(木城町まち・ひと・しごと創生推進会議)による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

(公表の方法)

目標達成状況については、検証後速やかに木城町公式ホームページで公表する。

(9) 事業期間 平成29年4月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 保育料軽減事業

事業概要: 保育料の月額上限を3歳未満は上限30,000円、3歳以上は上限23,000円に軽減し、子育て世代の経済的負担軽減を目的とするもの。

実施主体: 木城町

事業期間: 平成29年度～平成31年度

(2) 乳幼児及び児童医療費助成事業

事業概要: 未就学児の医療費を無料、小中高生の医療費を初診料(自己負担800円)のみとし、子育て世代の経済的負担軽減を目的とするもの。

実施主体: 木城町

事業期間: 平成29年度～平成31年度

(3) 任意予防接種助成事業

事業概要: (イ) 乳幼児を対象に、ロタウイルス・おたふくかぜの予防接種料金を一部助成し、予防接種率を上げることで乳幼児の健康増進を目的とするもの。

(ロ) 季節性インフルエンザ予防接種料金の一部を乳幼児、小中学生、妊婦を対象に助成し、予防接種率を上げることでこども、妊婦の健康増進を目的とするもの。

実施主体: 木城町

事業期間: 平成29年度～平成31年度

(4) 妊婦歯科検診等助成事業・乳歯むし歯予防事業

事業概要: (イ) 妊婦の歯科検診及び治療費の助成(1万上限)を行い、妊婦の健康増進を図ることを目的とするもの。

(ロ) 就学前の幼児を対象にフッ素塗助成券(無料券)を年2回配布し
幼児の健康増進を図ることを目的とするもの。

実施主体：木城町

事業期間：平成29年度～平成31年度

(5) 学校教育経済的支援事業

事業概要：小中学校修学旅行費(交通費分)、小中学校給食費(月2,000円)
の助成を行い、子育て世代の経済的負担軽減を目的とするもの。

実施主体：木城町

事業期間：平成29年度～平成31年度

(6) 学力向上サポーター事業

事業概要：学力向上サポーターを配置(小学校3名、中学校2名)し、少人数
学級や習熟度学級の取組みにより学力向上を目的とするもの。

実施主体：木城町

事業期間：平成29年度～平成31年度

(7) 定住促進奨励事業

事業概要：住宅取得奨励金(100万円(町内業者200万)、小学校入学祝金(第2
子以降10万円)、出産祝金(第2子:10万円 第3子以降:20万円)を
支給し、木城町への子育て世代の定住を促進することを目的とするもの。

実施主体：木城町

事業期間：平成29年度～平成31年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業のKPIである子育て世代の転入数、木城えほんの郷利用者数、観光入込客数、
雇用者数(文化・芸術関係)について実績値を公表する。また、木城町まち・ひと・
しごと創生推進会議【(官)宮崎県(金)高鍋信用金庫支店長(産)JA児湯支所長、木
城町商工会会長、認定農業者協議会会長、(メ)宮崎日日新聞高鍋支局長(労)児湯地
区内労働組合(学)南九州大学教授(住民代表)木城町自治公民館連絡協議会会長、
木城町若者会会長、木城町民生委員児童委員】において事業の結果を検証し、改善点
を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度6月に外部有識者（木城町まち・ひと・しごと創生推進会議）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標達成状況については、検証後速やかに木城町公式ホームページで公表する。